

日刊 労働者千葉

87. 2. 11

No. 2475

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

少数の者が、困る者が、労働運動の主流派として登場しよう！！



メッセー

石川島播磨重工業
総評 全造船機械・石川島会館
委員長 佐々藤 芳夫

緊急

残念ながら参加できませんが、今日の旗開きのふん囲気は、ありありと目に浮びます。厳しい情勢の中で闘魂をもった一人一人の皆さんの顔がよく見えます。厳しい情勢の中で底抜けに明るい労働千葉の皆さんをはじめ、連帯にかけつけて下さった沢山の人の顔が。

をしたくない。裏切りをなんとも思わない奴らを軽蔑し、闘いの根性をもって生きぬく人々に崇高さを感じます。だから高崎・水戸の仲間が皆さんの生き方に共感し、そして、またおびただしい人々の支持と共感が労働千葉に集まっているのです。軍歌を歌い、当局の落穂拾いになつている奴らにとっては大の大打撃です。地獄の新会社へ行くにも差別と選別が行われるでしょう。しかし、一人残らず差別を恐れずに闘ったら差別する側にとっては差別の意義はなくなりません。差別を恐れ、当局にしつぽを振る連中にとつては、新会社は地獄であり、差別を恐れず闘う者にとつての新会社は団結によつて労働者天国にもなり得るものと思えます。

合理化攻撃の中で同盟御用組合を脱退し分会に加入

石播が千人削減へ

造船設備の6割合理化

労組に提示



不況深

石播重工軍需独占資本も、いま七千人の首切り合理化攻撃を加えておりますが、その結果、何が生まれたか、同盟の御用組合を脱退し、断固、石川島分会に一名の労働者が加入してきたのです。どうだ、どうだ。これが労働者なのです。八七年を闘う者が少数が多数へ。そして、労働運動の主流派として堂々と登場させようではありませんか。

嘘と矛盾で固められた国鉄法に腹がた

はじめまして、横浜交通労組の一組合員です。
「俺たちは鉄路上に生きる」素晴らしい本です。
三月月間の間、何十回と読み直しました。
映画の方も横浜、横須賀と二回見ました。
9.9集会ではカバもはし、物販にも協力しました。
今から第二弾が楽しみです。
さて、本を読んでみても、労働千葉は当り前の事をやっているか、書いてあつたか、その通りかと思ひます。
ただ、厳しい状況の中、闘争がほとんど停頓している中、労働千葉は元気に闘っているのが目立ちます。
労働千葉の事はさておき、闘争も全国でハストや国民会議の集会などで運動しているようですが、この程度の運動ならば誰でも出来るし、次の闘争が明確でないと思ひます。
この大事な時期に楽観的過ぎると思ひます。
やはり、どうせクビを切り取るのなら、一発ストをやるか手はないと思ひましたね。闘争は202億の事を以てかストという言葉すら口にしません。
それにしても地道な運動が少くないと思ひます。
話は変わりますが、自衛隊の公営交通も行革のもとに大合理化攻撃がかかるのは、目に見えていると思ひます。
しかし社会党にバスターの当組合本部は国鉄争いに取り組んでいないのです。
しかし自分は、嘘と矛盾で固められた国鉄法案に腹がた。今は、仲間と訴えるために、週刊で新聞を発行しております。大分、中野委員長の記事の影響を受けて書いた部分が多いのですが、おかげですら好評です。
自分は組合の専従でもなく、泊り勤務もあり、確かに一人で新聞を作るのは辛いですが、ましてや、自衛隊の権利問題も忘れてはならないので、しかし、片や10万人の労働者の首が飛ぶというのに自分は遊んでいるわけにはいきません。
弱肩2歳の自分ですが、これから労働千葉を応援していきます。2月19日 横浜会館には、必ず顔を出します。うれしいことに、高校の同級生で、何の組合経験もない友人も来てくれるそうです。
そして、皆さんお体に気をつけて勝利を徹して下さい。

当局にしつぽを振る者には「新会社」は地獄だ
人間が人間らしく生きてゆくために労働マルの松崎のように、みつともないこと